

中原区

川崎市平和館

JR 南武線・横須賀線「武蔵小杉駅」

東急東横線「武蔵小杉駅」「元住吉駅」から 徒歩約 10 分

平和を願い、非平和に思いを巡らす



緑豊かな中原平和公園の一角に、川崎市平和館(以下、「同館」と略)が静かに佇んでいます。川崎市が、平和都市の創造と恒久平和の実現に寄与するために米陸軍出版センター跡地に建設し、1992(平成 4)年 4 月 15 日(川崎大空襲の日)に開館しました。

平和学的な展示デザイン

皆さんご存じでしょうか。平和博物館・平和資料館といわれる施設の数がいちばん多い国は日本。なんと世界の 4 分の 1 以上の施設が日本にあるそうです。平和博物館というと、多くの人が過去の戦争に関する品々を展示している施設を思い浮かべるかもしれません。もちろん戦争は生きるという最低限の権利を組織的に奪う究極の非平和です。それは間違いありません。では、戦争さえなければいいのでしょうか。貧困や差別、環境汚染など、人間の尊厳ある生を損なう幅広い問題を非平和と捉え、考察する平和学という学問があります。同館は平和学的な展示デザインの施設です。

同館 2 階常設展の入口では平和に関連する世界の格言を紹介していて、「平和ってなんだろう」と考える導入部分となっています。導入部の後は、川崎と戦争をはじめ、日本と戦争、兵器と戦争、国家による弾圧、現代の紛争、メディアと紛争、貧困、差別、環境問題など、パネル解



▲常設展
「川崎と戦争」コーナー

説や映像資料、実物や模型の展示によって「非平和」「平和」を考えます。最後のコーナーでは、ここまでに見てきたさまざまな非平和に対応させる形で、平和の建設を目指した取り組みを紹介しています。

兵器と戦争コーナー



「核弾頭と地球」
核弾頭 500 発ごとに人が住めなくなる範囲がどのくらいなのか、地球の模型が赤く光って示します。地上には 13,000 発以上の核弾頭があり、地球が何度も滅亡してしまうほどの数が存在していることがよく分かります。

参加型の平和教育

同館は参加型の平和教育にも取り組んでいます。小・中・高校等で出前授業を行ったり、出前授業を通して生徒たちが考えたことを同館で展示したりして、生徒たちと一緒に非平和を考え、話し合う場を作っています。

企画展も参加型です。毎年時事的な平和問題も参考にキーワードを決め、それに沿っ

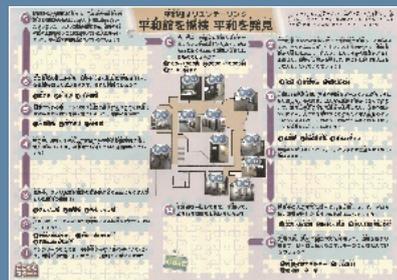
てミニ企画展を 2 回、企画展を 1 回開催しています。昨年度は「排除」をキーワードにしました。コロナ禍など災害時は、不安や恐怖感が暴力的な排除の言い訳に使われてしまうことも少なくありません。そこで、1 回目のミニ企画展「コロナ禍の気持ち」では、中高生がコロナ禍の気持ちを表している顔のイラストを描いた作品を展示しました。2 回目のミニ企画展は、中高生が考えた排除に抗するための平和教育プログラムをパネル展示し、関連イベントでは、一般来場者も交えて、自分たちの作ったプログラムを実際に体験し合いました。企画展は、さまざまな社会的排除にさらされる人々を写した写真展「非平和展」と、映画上映会を開催しました。

同館専門調査員の暉峻(てるおか)僚三さんは、「平和や人権は、自分のこととして考えて、話すことが必要なので、面倒くさいと感じる人も多いでしょう。ただ、平和で持続可能な社会を築くためには必要なことだと思います。いろいろな非平和について知り、考え、語り交わして、その非平和を平和にどう転換させていけるのかを模索できる施設にしていければと思っています」と話していました。



◀1982(昭和 57)年 6 月 8 日、全国の都道府県・政令指定都市に先駆けて核兵器廃絶平和都市宣言を行った川崎市。「核兵器のない平和な世界」の実現を願い、2015(平成 27)年に被爆樹木の二世を植樹しました。
左)被爆アオギリ二世(広島) 右)被爆クスノキ二世(長崎)

オリエンテーリングシート



館内では、このシートを手に見学している子どもたちを見かけます。質問の答えを探したり、自分の考えを書いたりしながら館内を見て回り、最後に平和の意味を考える同館オリジナルの教材です。

■川崎市平和館

〒211-0021 中原区木月住吉町 33 番 1 号

電話:044-433-0171

開館時間:午前 9 時から午後 5 時(常設展示場)

午前 9 時から午後 9 時 30 分(会議室など)

休館日:月曜日、第 3 火曜日

(祝日の場合はその直後の平日)

12 月 29 日から 1 月 3 日

入場料:無料(会議室は有料・申込はふれあいネットから)

団体見学:事前にご相談ください

ホームページ

